

第 10 期 pES club step4 大会歯学生シナリオ

平成 23 年 6 月 19 日

東京医科歯科大学大学院 顎顔面矯正学

渡辺 千穂

東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学

南郷 里奈

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは黒蘭歯科大学附属病院歯科口腔外科に勤務する 4 年目歯科医師です。

ある日、阿後賀翔くん（8 歳 10 カ月、男児）が母親に連れられて、矯正歯科治療の相談に訪れました。上顎前歯が出ているのを母親が気にしているようです。

翔くんは出生・栄養状態は良好で、骨格的には下顎が小さく、上顎前歯の唇側傾斜を認めます。顎間関係は Angle Class II，Dental age は IIIA です。上下顎前歯に軽度の叢生があり、パノラマ X 線写真を撮影したところ、欠損・過剰歯はありませんでした。う蝕はなく、口腔清掃状態も良好です。

あなた「翔くんの場合、上の前歯が唇側に傾いているのに加え、骨格の問題として下顎が小さいことも前歯が出て見える要因だと思います。また、前歯に少しでこぼこもありますね。これからレントゲン撮影や歯型を取って、詳しいかみ合わせの検査をしたいと思います」

お母さん「先生なんとかお願いします！この子、よくなりますか？どんな治療をすることになるんですか？」

あなた「具体的な治療は検査をしてから決めますが、今のところ考えられるのは、取り外し式の装置を使って、下顎の成長を促すような治療です」

お母さん「取り外し式の装置？なんだか大変そう。使うのは苦しくないですか？翔ちゃん、大丈夫かしら・・・」

翔くん「なんか面倒くさいーい」

あなた「翔くんの年代の患者さんではよく使うんですよ。詳しい使い方は、実際に使い始める時にまたお話しします。翔くん、どう？使えそうかな？」

翔くん「よく分かんないーい。もう僕このままでいいもん」

お母さん「翔ちゃんそんなこと言わないの！先生すみません。でも装置って、ずっと付けなきゃいけないんですか？なんだか痛そうで、翔ちゃんかわいそう」

あなた「まあまあ、そんなに心配なさないでください。今後の検査や治療の流れについて、これから順を追ってご説明しますから」

あなたは、今後予定している矯正歯科治療について説明をすることにしました。説明の際には、翔くんが本当に可撤式装置を用いた治療ができるかどうか確認するとともに、II 期治療を見据えた長期的な展望についても話をして下さい（10 分間）。